

令和7年3月5日（水）全校朝礼

いよいよ本年度の最終月、3月に入りました。

さて、皆さん。今週の月曜日3月3日（月）は桃の節句、ひな祭りでした。最近ではそれにちなんで、ひな人形を飾ったり、ひな祭りに関係するごちそうを食べたりする機会は少なくなっていると感じていますが、皆さんのお家ではどうでしょうか。

ひな祭りの起源は、「上巳（じょうし・じょうみ）の節句」と呼ばれる、中国から伝わった厄払いの行事だとされています。「厄」というのは「人に降りかかる災い」のことです。中国の厄払いの行事が日本に伝わってきたのは平安時代のころで、もともと日本では「紙や土で人の形をつくり、それに厄を移して、川に流す」といった「流しびな」の文化がありました。この流しびなの文化が、厄払いの行事と結び付いたのがひな祭りの始まりとされています。

しかし、もともとは女の子の日というわけではなく、老若男女問わずに健康を祈願する行事でした。特に「子どもが無事に育つ」のが難しいことでした。それだけに古くから伝わる日本の行事には、ひな祭りに限らず、厄払いを意味したものが多く見られます。

では、なぜ、「子どもが無事に育つ」のが難しいことだったのでしょうか。それは、今ほど衛生環境が十分でなく、医療もあまり発達していなかったこと、また、その医療が庶民一人一人にまで届かなかったことがあげられると思います。

衛生環境を整えておくことは、伝染病など病気の予防をするのにとっても大切で、例えば私の子どもの身の回りには目には見えない細菌やウイルスがたくさん存在しており、汚れた場所を汚れたままにしておくと、悪い細菌やウイルスが増殖して、それが体の中に入ることによって病気が引き起こされていきます。また、人が住んでいない建物は細菌やウイルスだけでなく、様々な植物が生き茂ったり、小さな動物たちの働きなどによって、やがて朽ち果てていきます。

ではなぜ、人が住んでいると建物は朽ち果てることなく維持されるのでしょうか。

たぶん、皆さんも気がついているでしょう。それは人が掃除をするからです。掃除をすることで場が清められ、細菌やウイルスの繁殖を抑えるからです。

皆さんの家ではだれが家の中を掃除していますか。自分の部屋やスペースがある人は自分のスペースを自分できれいにしているのでしょうか。

学校は、生徒の皆さんが分担に従って掃除をしてくれています。校務技師の好川さんや平口さんをはじめ、先生方も掃除に加わりますが、この学校の衛生環境を整えるには、皆さん一人一人の力が大きいのです。

本校の清掃時間は帰りの会の前の15分が設定されていますが、その時間いっぱい清掃に励んでくれることで、学校が汚れなく清潔なものとなっています。

他の公共施設は、そこに努める職員の方または清掃専門の業者の方が掃除をしてきれいにしてくれています。特に汚れやすいのがトイレであり、逆にトイレがきれいな施設は訪れる人を気持ちよくさせるので、施設だけでなくそこで働く人たちも好感を持たれます。外国人観光客から「日本のトイレはきれいで素晴らしい」という声があることはニュースなどでときどき報道されています。

今から、約70年まえにかかれた詩を一つ読みます。

作者の濱口国雄さんは、昔は国鉄と呼ばれていた今のJRに勤めていた方で、若いとき、駅構内のトイレ掃除をしていたときに書いたものです。このころは、敗戦後の混乱期にあたり、1953（昭和28）年頃は、食べ物や着るものも足らず、結果、公共の場所をきれいにしようという意識も薄く、駅でも公衆便所でもひどい汚し方だったようです。まず、とても汚い、汚れたトイレを想像してください。そして、詩を聞いてください。

～ 詩「便所掃除」（濱口國雄）の朗読 ～

「掃除」ということについて、様々なことを考えさせてくれる詩です。私は、掃除するということは、場を清潔に保ち、病気を予防することに加えて、自分の手を汚して自分の心を磨くことだと考えています。

古い校舎ではありますが、皆で力をあわせて古いけれども汚れていない、清潔な学校にしていきたいと思います。

いよいよ卒業式まであとわずか、また、もう少しで令和6年度の3学期が終わります。最後をしっかりと締めくくり、来年度につながるようにしてください。

以上です。静かに聞いてくれてありがとうございます。